

8. まとめ

本章では、町丁目単位で居住環境と治安状況との関連(相関係数)を分析した結果をみてきたが、その主要な結果をここでまとめることにしたい。

[認知件数あるいは自己報告による犯罪発生の結果]

1) ひったくりの認知件数(人口千人当たり)については、「コミュニティ意識」と「日常の安全確保の取り組み」の分析結果として、住民のまとまりの強く、地域住民が協働して安全確保に積極的に取り組む地域ほど、発生率が低くなっている。さらに、「地域内の安全確保の取り組み」の結果として、組織的な安全確保の取り組みが図られている地域ほど、ひったくりの認知件数が少ないことが示されている。また、「地域の無秩序」の結果を見ると、潜在的に問題を起こしそうな人(不良化しそうな少年、浮浪者らしき人、暴走族)や有害環境(風俗店の立て看板やわいせつな雑誌やビデオの自動販売機など)に対する統制の不十分な地域でひったくりの認知件数が多くなっている。

2) ひったくりの自己報告被害については、「日常の安全確保の取り組み」の分析結果として、地域住民が協働して安全確保の取り組み(防犯パトロール等の防犯活動や非行防止活動)に積極的に取り組む地域ほど、ひったくりの自己報告被害が少なくなっている。また、「地域の物理的環境」の分析結果として、車道と歩道が分離されていなかったり、脇道や行き止まりの多い地域で、ひったくりの自己報告被害が多いことが示された。

3) バンダリズムの自己報告被害については、「日常の安全確保の取り組み」の分析結果として、地域住民が協働して安全確保の取り組み(防犯パトロール等の防犯活動や非行防止活動)に積極的に取り組む地域ほど、バンダリズムの自己報告被害が少なくなっている。さらに、「地域内の安全確保の取り組み」の結果として、安全確保に関わる警察の情報提供が良好である地域ほど、バンダリズムの自己報告被害が少ない傾向が見いだされる。また、「地域の物理的環境」の分析結果として、車道と歩道が分離されていなかったり、脇道や行き止まりの多い地域で、バンダリズムの自己報告被害が多いことが示された。

4) ちかんなどの性犯罪の自己報告被害については、雑草や樹木が生い茂って見通しが悪かったり、街灯が足りなくて夜暗い公園や空き地のある地域ほど、ちかん等の自己報告被害が多いことが明らかとなった。

[路上犯罪に対する住民の不安感の結果]

1) バンダリズムに対する不安感については、「地域の無秩序」の分析結果として、非行集団や暴力的な人々の存在が多いと認知されている地域ほど、バンダリズム被害への不安感が高くなっている。また、「地域内の安全確保の取り組み」の結果として、組織的な安全確保の取り組みが図られている地域ほど、バンダリズムに対する不安感が低くなっている。さらに、「地域の物理的環境」の分析結果として、街灯が足りなかったり、見通しが利かないために自然監視が行き届かない環境が多い地域ほど、バンダリズムに対する住民の不安感が高いことが明らかとなった。

2) ひったくりに対する不安感については、「地域の無秩序」の分析結果として、自転車が乗り捨ててあったり、ゴミが散乱しているといったように、住環境が十分に管理されていない地域ほど、ひったくりの不安感が高くなっている。また、「日常の安全確保の取り組み」と「地域内の安全確保の取り組み」の分析結果として、地域住民による防犯活動や非行防止活動が盛んであったり、安全確保に関わる警察の情報提供が良好な地域ほど、ひったくりに対する不安感が低い傾向が見られる。「地域の物理的環境」については、街灯が不足して夜暗い道路が多い地域ほど、ひったくりの不安感が高くなっている。

3) ちかんに対する不安感については、「コミュニティ意識」と「日常の安全確保の取り組み」の分析結果として、住民が少年の問題行動に積極的に対応したり、協働して安全確保の取り組みをする地域ほど、ちかんの不安感が低くなっている。「地域の無秩序」の結果としては、自転車が乗り捨ててあったり、ゴミが散乱しているといったように、住環境が十分に管理されていなかったり、暴走族が活動する地域ほど、ちかんに対する不安感が高くなっている。また、「地域内の安全確保の取り組み」の結果として、組織的な安全確保の取り組みが図られている地域ほど、ちかんに対する不安感が低くなっている。さらに、「地域の物理的環境」の分析結果として、街灯が不足しているために夜暗い道路や駐車場が多くある地域ほど、ちかんに対する不安感が高くなっている。

以上を総括すると、一部矛盾したり一貫しない結果も見られるが、概ね、住民や公的機関の地域問題に対する協働的な取り組みが少なく、潜在的に問題を起こしそうな人(不良化しそうな少年、浮浪者らしき人、暴走族)や有害環境(風俗店の立て看板やわいせつな雑誌やビデオの自動販売機など)に対する統制、ならびに街灯の明るさや道路における歩道と車道の分離等の環境整備の不十分な地域で、ひったくり、バンダリズムやちかんの犯罪被害が多く、またこ

これらの犯罪に対する住民の不安感も高いことが明らかとなった。また、これらの結果は、単に相関係数の値を検討するだけでなく、関連する変数の空間的分布を図示することでより視覚的にわかりやすく検討できることが示された。